

クラウドを活用したポータルサイトの構築と教職員による実践事例の共有

枚方市教育委員会 主幹 井手内 太吾, 主幹 倉田 仁司, 係長 浦谷 亮佑
 キーワード: GIGAスクール構想, 授業改善, クラウド活用, ポータルサイト

実践の概要

1人1台端末と高速通信ネットワークの環境整備により、市立小中学校での教職員の実践が一層充実した。それらの実践を一手に集約したポータルサイトを構築した。本実践は、学校や教職員の実践を広く発信するための「入り口(=ポータル)」となることをねらっている。

1. 目的・目標

1.1 ポータルサイト活用の目的とねらい

本実践は、令和3年(2021年)5月より運用を開始した実践である。これまで、市立小中学校において授業改善や働き方改革など、多くの研究を進めてきた。しかしながら、各学校の研究成果や実践事例の保存場所が様々であったり、保存容量に限りがあったり、研究成果をポートフォリオ的に蓄積していくことに課題があった。さらに、教職員が他校の好事例を参考にしたいとしても、事例を見つけることが困難な場面もあった。また、既存のホームページでは、容量の関係で動画等を掲載することが難しく、本市の取組を分かりやすく情報発信することにも課題があった。

本実践では、Googleが提供するサイト構築アプリケーションとクラウドサービスを活用し、2つのポータルサイトを構築・運用している。ポータルサイトを運用することで、教職員が学べる環境を整備すること、本市の取組を広く情報発信することを本実践の目的とする(写真1、2)。

2. 実践内容

2.1 クラウド、アプリケーション連携は無限の可能性

今回、構築した2つのポータルサイトの特長及び工夫については次のとおりである。

①「GiGA スク! ひらかた」

枚方市内の取組(教育やイベント等)の写真や動画を広く情報発信するためのポータルサイト。誰でも閲覧可能なページと教職員のみが閲覧できるページとに分かれている。

Googleが提供しているクラウドサービスを活用することにより、場所や端末にとらわれることなく作業することが可能である。また、クラウドの容量を気にすることなく写真や動画をポータルサイト内に掲載することが可能であるため、実践を視覚的に分かりやすく紹介することが可能である(写真3)。また、Googleの他のアプリケーションをポータルサイト内に組み込み、連携を図った。本実践では、Googleスプレッドシートのリンク機能を活用して「新着情報」を作成した。これにより、必要な情報に瞬時にたどり着くことができるようになった(写真4)。



写真3 写真や動画で見やすさアップ!

更新日時	更新内容
令和3年8月25日	「まなVIVA! ひらかた」の「新着情報」を更新しました。【スマートフォン】は閲覧できる状態に更新しました。【閲覧できるのは、教職員のみです。】
令和3年8月25日	「まなVIVA! ひらかた」の「新着情報」を更新しました。【閲覧できるのは、教職員のみです。】
令和3年8月25日	「まなVIVA! ひらかた」のホームページに「新着情報(2学期) 高学年統一発表」をアップしました。【閲覧できるのは、教職員のみです。】

写真4 新着情報の活用



写真1 GiGA スク! ひらかた



写真2 まなVIVA! ひらかた



GiGA スク! ひらかた QR コード



まなVIVA! ひらかた QR コード

②「まな ViVA! ひらかた」

市内研究校の実践や本市主催の教職員研修に係る資料を一カ所に集約し、教職員が「いつでも・どこでも・何度でも」知りたい実践や情報を瞬時に見つけ出すことができるポータルサイト。本市教職員に発行している専用アカウントとパスワードでのみ閲覧が可能である。教職員研修の様子を録画し、本ポータルサイトに掲載することで、研修を受講できなかった教職員やもう一度学びたい教職員が時間や場所の制約を受けずに学ぶことが可能である。それにより、研修内容が一層浸透し、教員の授業改善に大きく貢献すると考える（写真 5、6）。

教職員の授業改善により、子どもの学びがさらに深まり、学習指導要領のめざしている「主体的・対話的で深い学び」の実現に寄与する。研修動画は、権限設定を変更することができ、受講者がコピーやダウンロードができない設定にしておくことで、研修動画の二次利用を防ぐことができる。



写真 5 校内研究の実践を掲載



写真 6 研修動画アーカイブ

2.2 様々な実践事例を紹介することで普及性を生む

現在、本ポータルサイトで紹介をしている実践は次のとおりである。「教職員研修」「ICT 利活用に関する教材」「プログラミング教育の教材」「学校事務職員による実践事例」「授業実践事例」「授業マイスターによる授業実践動画」（写真 7）



写真 7 様々な分野での実践事例

昨年度、1 人 1 台タブレット端末導入に合わせ、ICT の操作が苦手な教員や経験年数の少ない教員の授業づくりのボトムアップをねらった動画教材を全 20 話分、プログラミング教育の授業実践を紹介した動画教材を 3 本製作した。また、市立小中学校の教職員の授業実践事例を 400 本収集した。それらの事例を、検索機能を加えて紹介することにより、学校を超えて実践を共有することが可能となった。さらに、本市が認定した授業マイスター

の授業について、その実践事例と動画を掲載している。授業づくりに悩んでいる教員にとっては、現地に行かなくても優れた授業や子どもの様子などを視聴でき、自身の授業づくりの大きな参考となる。

3. 成果と今後の可能性

3.1 学校を超えた教職員間の絆の深まり

教職員の実践を収集し、積極的に発信することで優れた実践を市内全体で共有することが可能となった。特に、授業実践事例については、現在 400 事例を超えており、今後も増えていく予定だ（写真 8）。事例は、見やすいように A4 用紙 1 枚にまとめている。内容としては、授業のねらいや流れ、ICT の活用場面や成果と課題が明記してあり、参考にした教職員が自身の授業へ活用できるように工夫している。また、学校名や授業者名も記載しているため、より深く知りたい場合は、直接担当者同士で連絡を取り合うことも可能である。



写真 8 授業実践事例 HI-PER

3.2 本実践の今後の可能性

本ポータルサイトのアクセス数や閲覧数等については、分析ツールを活用することで、現状をリアルタイムで把握することができる。各ページの閲覧者数やクリック数などを分析することで、教職員のニーズに合ったポータルサイトへブラッシュアップすることができる。今後は、「支援教育」「学校事務職員」「栄養教諭」「養護教諭」などの実践事例の充実もめざす。授業づくりに悩んだ場合でも、授業実践事例を参考に授業計画を組み立てることもできる。これにより、教職員が子どもたちと向き合う時間を確保できると考えている。

令和 3 年 10 月より、「枚方市タイピング選手権」を実施した（写真 9）。

これは、情報活用能力の 1 つの指標である、「タイピング能力の向上」をめざした取組である。本実践では、文字入力



写真 9 枚方市タイピング選手権

の速さだけでなく、正確さの向上もねらっている。結果は、学年ごとに分類され、学校を超えて共有され、さらに、上位入賞者には、表彰制度も設けている。そのため、児童・生徒が自身のタイピング能力向上のために主体的に取り組み、2 か月間で約 500 人以上の児童・生徒が参加している。また、保護者、教職員も参加が可能なので、校内の取組としての参加や、家族で参加する様子も見られた。

今後も、各学校の研究や教職員の実践事例を掲載し、本市の取組を積極的に発信していきたい。

枚方市教育委員会・井手内 太吾、倉田 仁司、浦谷 亮佑